

三重の次世代チーム「マイン」では、毎週金曜日夜(9~10時)、オンラインの「しんぶん読む会」をしています。参加者は平均5人程度。参加者が少なくても多くても、深い話で盛り上がりまします。この「読む会」とグループ「LINE」が、次世代の学習や行動の「拠点」になっています。

## 要求いっぱい、会員大募集!

# 「しんぶん読む会」とグループLINEが次世代の拠点に

三重県本部機関紙部長・次世代担当 柴 吟子



「トイレットペーパーのように生理用品を」と県に要請(4月16日)

「いつでも参加を」と今年2月に出会った30代のKさんは、「SNSは攻撃も多くなってしまい」「顔を見合わせる政治のことを話せる場所がほしい」と話して、毎週オンラインがあるから、「また連絡する時間だ」「安心して話せる」と好評です。国会行動の参加者が話したり、新しい人が入ると参加率も上がったり。「参加してもしなくてもいい。途中からでも途中まででもいい」という「ゆるさ」を保ちながら続けています。

「トイレットペーパーのように生理用品を」と県に要請(4月16日)という行動の背景に、この間の国会行動の「直接体験」が大きな力になっています。4月の国会行動には津支部の2人が米問題や選択的夫婦別姓、生理用品の要望は外せないという行動の背景に、この間の国会行動の「直接体験」が大きな力になっています。4月の国会行動には津支部の2人が米問題や選択的夫婦別姓、生理用品の要望は外せないという行動の背景に、この間の国会行動の「直接体験」が大きな力になっています。



国会行動で地元選出議員室を訪問(4月23日)

夜なので、疲れて眠ってしまったら子育てで忙しかったりと、毎回参加できる人の方が少ないです。それでも「逆に元気が出た」「いい時間だ」「安心して話せる」と好評です。国会行動の参加者が話したり、新しい人が入ると参加率も上がったり。「参加してもしなくてもいい。途中からでも途中まででもいい」という「ゆるさ」を保ちながら続けています。

### 談話

## 日本学術会議の解体法案 参院でかならず廃案に

新日本婦人の会副会長 西川香子

自民・公明・維新3党が5月13日、日本学術会議独立法人化法案を衆議院本会議で強行採決したことによく抗議します。立憲・国民・共産・れいわなどは反対しました。

日本学術会議は、この法案が自主性・独立性を侵すなどと懸念を表明し、抜本

修正を求めています。歴代会長6氏をはじめ各分野の研究者、市民、新婦人など各団体も、学問の自由の侵害や軍事研究につながる廃案を求め、国会前一人間の鎖行動を展開する中、国会で20時間にも満たない審議で強行したのです。

今回の法案は、現行の学術会議を解体し、全く違う独立法人につくり変えるものです。現行法の前文「科学者の総意の下に、わが国

の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学会と提携して学術の進歩に寄与する」を削除、今後の運営・財務・会員選挙にまで政府が介入できます。国際アカデミー会議も、各国の共通5要件(①学術的に国を代表する機関としての地位②そのための公的資格の付与③国家財政支出による安定した財政基盤④活動面での政府からの独立⑤会員選挙における自主性

を掲げ、懸念を示しています。衆議院での審議で、維新の議員が「今後は防衛技術の研究に貢献を」と賛成を迫り、大臣が「特定のイデオロギーや主張を繰り返す会

員は解任できる」と答弁、恐ろしいねらいを明かしています。

戦後80年、沖縄戦をめぐる自民党と参政党議員の暴言など歴史の逆行を許さず、戦争国家づくりにつながらる学術会議解体法案は、参議院で徹底的に審議し、必ず廃案にしましょう。

2025年5月15日



た。グループLINEでは次々に「吉田さんに連帯します」と声が集まり、一人が「県に生理用品設置の要望はない?」と提案すると、すぐに数人が「行きます!」と反応。吉田さんを一人にしない、女性が声を上げることへのバックラッシュに屈しないと、4月16日に県本部の井口会長を含む4人で県に要請。「社会課題として受け止め、設置を検討する」との返答を得ました。この行動の背景に、この間の国会行動の「直接体験」が大きな力になっています。4月の国会行動には津支部の2人が米問題や選択的夫婦別姓、生理用品の要望は外せないという行動の背景に、この間の国会行動の「直接体験」が大きな力になっています。

### ゆるく開かれたチームで

「マイン」のLINEグループには、40人弱が参加しています。会話や行動に参加できない人にも、疎外感や罪悪感をもってほしくない、の思いで、「会員一人の存在が組織の大きな力になっていて、そこで行動できる人がいる。新婦人にいるだけで大事なことを

## 仕事と家庭、活動をつづけ



全信労東京地連のキャンプで(1977年)

は「退職届」も出さず、女性の既婚者は退職を勧奨される時代でした。それでも、子どもを育てながら働く女性たちが増え、「どのようになっているのか」と、芝信用金庫など他の信用金庫の組合の人たちから呼ばれ、話に行ったこともあり。芝信用金庫従業員組合のみなさんは、粘り強く男女同一賃金など差別是正を掲げてたたかっています。そして2002年、13人の女性たちが「昇進・昇格差別是正を求めた」初の判決を勝ち取り、貫徹しましたからね。すごいと思えました。

## 母の歴史

東京都 大神田朝子さんのお話 (8)

東京信用金庫解雇撤回闘争の12年間(1960年~1972年)は、振り返ると「そんなにやってきたんだ」との思いが強いのですが、その間を生きいき過ごせたことは、やはり私の宝だったと思います。それでも、つらいことはつらかったです。両親に心配をかけ、父親を法廷に立たせたり、子どもたちに不満を抱かせたりしました。

仕事と家庭の両立の他、活動もしていましたから、まっすぐに家に帰れるのは週三日ほど。その間は夫が帰るはずが、そうもいかなくてね。「男は男、女は女」と育てられた世代ですから、家庭での家事や育児の負担ができていく人はほとんどいません。夫も、子守りや洗濯ものをたたんだりはしました。が、台所仕事まではしませんでした。

私が入社したころ(57年)は、結婚の退職時に